

工場新設を機に安全衛生に 取り組む

(編集部)



(写真奥右から)本野陽彦代表取締役社長、斉藤覚工場長、榎本輝雄労働安全コンサルタント、安全衛生担当の佐藤明宏さん、写真手前は女性従業員のみなさん

日本ドラムが2カ所(横浜、市原)の工場を統合して、富津工場を立ち上げたのは2006

年。工場新設を機に、安全衛生に力を入れることになり、当時の社長・村尾邦彦氏(現取締役会長)と工場長、安全衛生担当を中心に、協力会社の(有)南星物流の代表取締役・照屋一郎氏、労働安全コンサルタントの榎本輝雄氏も交えて、取り組みを始めた。2年前に社長が本野陽彦氏に交代してからも安全衛生への意気込みは衰えず、着実に活動を活性化させています。

ドラム缶を回収・更生

会社では、使用済みドラム缶(スチール製、ステンレス製)

を回収し更生後、販売していただきます。「更生」とは回収したドラム缶のへこみを直し、洗浄後、色を塗り直したりして元の形に仕上げる。この作業では多くの有機溶剤を扱うため、有機溶剤の管理を徹底しています。

リスクアセスメントを用いた作業手順書

榎本氏の毎月の訪問日にあわせ、安全衛生担当者が同行して職場巡視を実施しています。職場内の危険箇所を徹底的にチェックした後、良かった点、改善点を話し合います。

拝見したのは...

日本ドラム(株)富津工場

千葉県富津市新富72-15

従業員 37人(富津工場)

主な事業 スチールドラム、ステンレスドラム缶の更生と販売、各種容器販売、1tコンテナ(IBC)の更生 ほか
創立 昭和7(1932)年4月
本社所在地 神奈川県川崎市幸区大宮町14-4

榎本氏がかかわり始めたとき、すでに「作業標準」と呼ばれる手順書がありました。しかし、作業手順のみの記載で、該当作業がどの程度危険なのか、どこで実施する作業なのか明確に表示されていませんでした。そこで、2007年からは作業手順書にリスクアセスメントを取り入れることにしました。これまでであった手順書をもとに、現場の意見を取り入れながら、予想される危険、その重大性と可能性、リスク低減対策などを盛り込みました。これにより、作業の手順だけでなく、リスクも

〈修正前〉 作業手順書

| 作業票の名称 | 担当部署・名称 | 作成者 | 名称 | 用途 | 留意 |
|--------|--------------------------------------------------------|-----|----|----|----|
| 作業票の概要 | 作業票の概要 (作業票の目的、作業票の名称、作業票の範囲、作業票の適用範囲、作業票の作成者、作業票の承認者) | | | | |
| 作業票の目的 | 作業票の目的 (作業票の目的、作業票の名称、作業票の範囲、作業票の適用範囲、作業票の作成者、作業票の承認者) | | | | |
| 作業票の範囲 | 作業票の範囲 (作業票の目的、作業票の名称、作業票の範囲、作業票の適用範囲、作業票の作成者、作業票の承認者) | | | | |
| 作業票の承認 | 作業票の承認 (作業票の目的、作業票の名称、作業票の範囲、作業票の適用範囲、作業票の作成者、作業票の承認者) | | | | |
| 作業票の作成 | 作業票の作成 (作業票の目的、作業票の名称、作業票の範囲、作業票の適用範囲、作業票の作成者、作業票の承認者) | | | | |

〈修正後〉 作業手順書

| 作業票の名称 | 担当部署・名称 | 作成者 | 名称 | 用途 | 留意 |
|--------|--------------------------------------------------------|-----|----|----|----|
| 作業票の概要 | 作業票の概要 (作業票の目的、作業票の名称、作業票の範囲、作業票の適用範囲、作業票の作成者、作業票の承認者) | | | | |
| 作業票の目的 | 作業票の目的 (作業票の目的、作業票の名称、作業票の範囲、作業票の適用範囲、作業票の作成者、作業票の承認者) | | | | |
| 作業票の範囲 | 作業票の範囲 (作業票の目的、作業票の名称、作業票の範囲、作業票の適用範囲、作業票の作成者、作業票の承認者) | | | | |
| 作業票の承認 | 作業票の承認 (作業票の目的、作業票の名称、作業票の範囲、作業票の適用範囲、作業票の作成者、作業票の承認者) | | | | |
| 作業票の作成 | 作業票の作成 (作業票の目的、作業票の名称、作業票の範囲、作業票の適用範囲、作業票の作成者、作業票の承認者) | | | | |

図 作業手順書の修正前と修正後(例)

「この作業手順書を作成したこと、工場内の安全意識が一段にレベルアップしました。昔から比べると信じられないくらい

一目瞭然となったのです。さらに、この作業手順書を職長教育で使用しています。現状の作業手順書を受講者に渡し、追加、修正すべき点はないかを課題として与えます。作業手順書が多くの人目にさらされることで、よりよいものとなっていきます。また、普段は作業を実際にやっている受講者も、あらかじめ作業手順書を見直す機会となっています(図)。

「ここで経営、安全衛生、環境など、何でもざっくりばらんに話します。また、役職者たちは

もうひとつ、社内の安全衛生の意識を変えたものがあります。それは会長、社長、役職者、安全衛生担当者によって毎月1回開催される工場運営会議。

これをきっかけに、ISO14001の取得にも弾みがついたそうです。

月1回の会議で社内が活性化

表 2013年度安全衛生方針

安全衛生方針

日本ドラム株式会社は、経営理念に基づき職場で働く全員が自らの安全と健康を維持し働きやすい職場環境を構築して社会からの信頼をより一層高め企業価値の向上を目指します。

1. 全職場のリスクアセスメントを実施し、危険有害要因を抽出して除去対策を立案し先取りした安全衛生活動を実行します。
2. 労働安全衛生法等関連法規及び社内安全衛生管理規定を遵守し社会的責任を果たします。
3. 労働安全衛生マネジメントシステムを確実に実践し、PDCAサイクルを廻して安全衛生活動に反映させます。
4. 職場における全従業員、協力会社に対して安全衛生教育を実施すると共に現場の意見を反映した安全衛生活動を積極的に推進し、安全意識を高め労働災害撲滅に取り組めます。

2013年4月1日
日本ドラム株式会社
代表取締役社長 本野陽彦

職場から吸い上げてきた意見も発表します。

安全衛生については、職場巡視の結果をもとに、課題と改善策を話し合います。回を重ねるうちに、出席者そして従業員からの意見が活発に出るようになりました。「自分の意見を反映してもらえる」ということが社内的にも理解されてきて、従業員に「安全は大事」という意識が芽生えるようになりました。

さらなるレベルアップを！

今後は新入社員教育の徹底を図る予定です。現在、そのテキストづくりも進めています。

また、作業主任者をはじめ、現場での作業にかかわる資格を取得したいと要望する人が増え、可能な限り取得させるようにしています。工場内の従業員数は50人未満ですが、衛生管理者の資格取得者もいます。

今年度は表に示す安全衛生方針のもと、活動を進めています。本野社長は「毎年、毎年、安全衛生に関する従業員の意識が目に見えてレベルアップしています。今後もさらに良い職場をつくっていききたいですね。また、これからは安全だけでなく、衛生にももっと力を入れていきたいです」と、抱負を語ってくれました。